



# あっちの話

青森  
から

## リンゴ畑のぬかるみはホタテの貝殻で解決

櫻井 歓太郎

黒石市でリンゴを栽培する佐藤国雄さんは、1・7 haの観光リンゴ園を経営しています。毎年9月から11月まで営業し、多くの人で賑わうそうです。そんな佐藤さんのリンゴ畑の片隅には、大量のホタテの貝殻

さんも歩きにくかったり。圃場に砂利を敷いてもみましたが、草刈り機の刃の邪魔になって具合が悪い……。

が積んでありました。聞くと、3年前からリンゴ畑に敷いているといいます。

そこで、SS道やお客さんが歩くところを中心に、砂利の代わりにホタテの

佐藤さんのリンゴ畑に

は、地下水脈の関係か、雨が降るとどうしてもぬかるむ場所がいくつかあります。防除に使うSSが走行できなくなったり、観光農園に来るお客



貝殻を敷いてみました。貝殻は、県内の漁港から大型トラックで運んできたもの。地面が見えなくなるくらいにまいておくと、踏みつけられて割れたりして、そのうち土と混じります。やわらかい貝殻は草刈り機の刃も大丈夫。雨の後も歩きやすく、土壌のカルシウム補給にもなって「一石二鳥だ」と佐藤さん、喜んでいました。

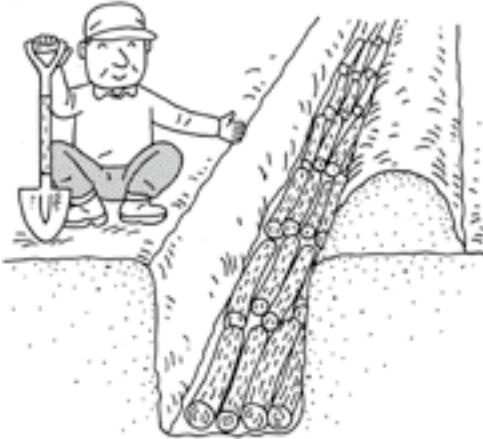


山梨  
から

## シイタケのホダ木をそのまま埋めて地力アップ

酒井 潮

韮崎市に住む野口長生さんは、趣味で原木シイタケを栽培しています。収穫したシイタケは近所の人に配ったり、仲間とバーベキューをしたりして楽しんでるそうです。以前は使い古したホダ木は野積みし、5年ほどおいて朽ちた



ものを畑にまいていました。しかしホダ木が朽ちるのには時間がかかるし、野積みは場所もとります。そこで、畑に一列に掘った溝に、使い終わったホダ木をそのまま放り込んで埋めてみました。

深さ1・2m幅45cmほどで20mもの溝を、野口さんはなんと手掘りしたそうです。ホダ木は半分ほどの深さまで入れました。上から野菜クズや落ち葉も入れて、土を被せて1年置くと、土中で菌が殖えたのかフカフカの土に大変身。長さ80cmほどの大塚ニンジンも素手で簡単に抜けるほどになりました。このニンジン、長すぎで以前は収穫前に地中で腐ることもあったそうですが、畑の水はけがよくなっていいものができるようになりました。金をかけずに地力アップできる画期的な方法ですね。



## あっちの話

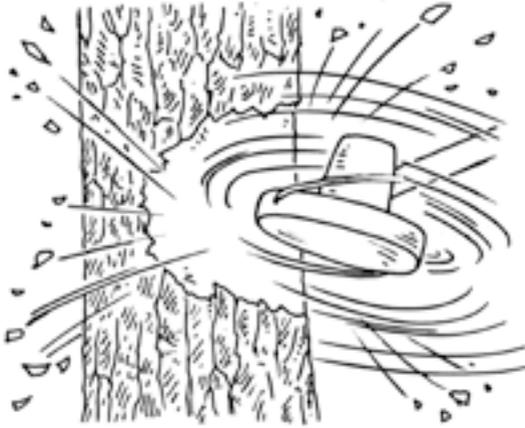
高知  
から

### ナイロンカッターでカキの粗皮をしばく！

三浦大弥

津野町に住む石村清郎さんは、出荷用のカンキツのほかに、自家用のカキも栽培しています。「ほかの人もやっているかもしれませんが……」と言いながら、カキの樹に潜む害虫を越冬させないワザを教えてくださいました。

使うのはナイロンカッター型の刈り払い機。ナイロンコードのヒモで樹の幹をバシバシしばくと、樹の表面の皮だけがバラバラはがれていきます。ナイロンコードはかわらかいので、樹の中までは傷つけません。害虫



は樹皮の下に潜んでいるので、皮をはぐと越冬できなくなります。ポイントは、古い樹ほど皮が厚いのでエンジンの回転数を上げ、若い樹はやや落としてやること。はがした皮が勢よく飛ぶことがあるので、フェイスガードは必須です。

この粗皮はぎ、以前は鎌でやっていた、1本の樹をはぐのに1時間近くかかることもありました。ナイロンカッターだと10分ほどでできるようになったそうで、石村さんは「ラクだし時間もかからなくていいですよ」と話していました。



岡山  
から

## モモの枯死症にお手軽腹巻き

向井道彦

岡山県の農林水産総合センター果樹研究所の藤井雄一郎さんは、凍害の影響で生じるモモ枯死症の原因と、効果的な対策がわかってきたといっています。

枯死症は、主に春、開花・展葉の時期に発生

します。発芽と初期の展葉までは幹の中に残っている水分を使いますが、その後の本格的な展葉や生長には根から吸った水分が必要。ところが凍害で樹の細胞がダメージを受けると水分の移動が障害され、初期の展葉後に生長が止まり、樹が枯れていく。

凍害は、寒い時期に根が動いてしまい、吸い上げた水分



が原因です。夜間に樹の中で凍った水が、日中の高温で急激に溶け、樹の細胞が傷ついてしまうのではないかとのこと。

そこで現在、岡山県で広がりつつあるのが「ワラ巻き」。昔から寒い地方で実施されてい

て、樹に巻いたワラが急激な温度変化を防いでくれるそうです。しかし、ワラの用意が必要なうえに手もかゆい。そこで藤井さんらが真庭市の(有)榎野木材と開発したのが、凍害防止資材「ホワイトスネーク1号」です。防水シートの中にかんなクズを入れたもので、株元に巻くことで急激な温



度変化を防ぎます。巻く時期が早すぎると根が休眠しないため、岡山では年末年始に巻くのがベストです。

幅25cm長さ2・4mで700円。ちゃんとモを収穫できればすぐに元がとれる価格ではないでしょうか。

滋賀から

## 酒粕風呂で体ぽかぽか&お肌つるつる

瀧澤宏明

甲賀市の稲作農家・中村万一郎さんは、寒い季節を元気に乗り切るために酒粕風呂に入っています。

呂、寒い時期に試してみてもうかでしょうか。

近所の酒蔵から分けてもらった酒粕を、布の巾着袋ににぎりこぶしほど入れ、お風呂に浸してギョツギョツと揉んで溶かせばできあがり。酒粕を溶かしたお湯はうっすら白く濁り、ほんのりお酒の香りがするそうです。血行促進効果で風呂上がりもポカポカ湯冷め知らず、お肌ツルツルで美容効果もバッチリです。市販の入浴剤より肌がツルツルになる気がするほどだとか。もちろん市販の酒粕でもできるので、酒粕風

